

平成22年度 事業評価（事業活動記録）

事業No. 266

所管部局	福祉部	所管課	子育て支援課	担当者名	高橋 伸夫
事業名	子宝祝金事業			事業分類	ソフト事業
細事業名	子宝祝金事業			政策体系	112
会計	一般会計	科目	3. 民生 - 2. 児童 - 1. 児童		

1. 事業の概要

南丹市に居住されている保護者が出産された場合に、子宝祝金として5万円を支給する事業。

2. 事業の目的と必要性

① 施策で目指す目標との関連付け

出生率が低下する中で、安心して子どもを生み育てることを支援する事業。
出生率の引き上げを目指す。

② 事業を実施する必要性

少子高齢化が進む中で、安心して子育てができる環境づくりが求められており、子育て世代への経済的な支援を進める必要がある。

3. 事業費の推移

	単位	平18決算	平19決算	平20決算	平21決算	平22予算	平23計画	平24計画
決算額または計画額	千円	21,132	24,226	22,306	11,636	11,168	13,039	13,039
うち一般職・嘱託職・臨時職の給与および共済費等	千円	0	0	0	0	0	0	0
財源内訳	使用料・手数料等	千円	0	0	0	0	0	0
	国・府支出金	千円	0	0	0	0	0	0
	地方債	千円	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	21,132	24,226	22,306	11,636	11,168	13,039
職員等の従事人員	人/年	—	—	0.25	0.20			
人件費	千円	—	—	1,719	1,183			
事業費総額	千円	—	—	24,025	12,819			

※事業費を要しない場合は「0」、事業を実施しない場合は「空白」で表示。
※千円未満を四捨五入し表示しているため、合計等が一致しない場合がある。

4. 主な事業費の内訳

出産祝金	11,600,000円
事務費	36,000円（役務費）

5. 事業結果の概要

少子高齢化が進み、安心して子育てができる環境づくりが求められている中で、子育て世帯を経済的に支援する取り組みを進めた。232人（第1子99人、第2子78人、第3子以降55人）

6. 活動の詳細

活 動 内 容	活動日又は時期	活 動 結 果 等
(1) 受付		
出生届時に出産祝金とすこやか手当の支給申請書の提出を受け付ける。	年間	
(2) 支給決定		
申請書を審査して、支給決定をする。出産祝金、すこやか手当支給認定書を2ヶ月ごとに本庁と各支所で行い、保護者に認定書を交付する。出産祝金はそのときに現金で、すこやか手当は、9月と12月に指定預金口座に振込みをする。	年間	出産祝金 173人第1子 68人第2子 63人第3 子以降 42人

7. 所属長評価〔平成20年度から改善した点、今後の展開など〕

南丹市の独自施策として展開してきた事業であるが、国の新しい子育て支援への制度の充実が開始をされる中で、子宝祝金事業については、支給要件は拡充したものの、支給金額については見直しを実施したところであるが、市全体としての出生数の減少を食い止めるまでにはいたっていない。今後も子育て支援条例に基づき、少子化対策に必要な支援事業として、継続していく方向であり、祝い金事業だけでなく、総合的な子育て支援、また少子化対策事業の充実、推進を図っていく必要がある。

【参考】過年度の評価

■平成21年度の所属長評価

- ①有効性・効率性を向上させるため、担当職員と議論を重ねた点
事業の内容について、南丹市子育て支援条例と併せて検討を行った。
- ②当該事業のアピール事項
子育て世代を経済的に支援する取り組みを進めた。
- ③反省点、今後の展開・方向性等
制度の内容について国等の施策を踏まえて検討を進める。